



漁 況 情 報

【5 月】長井・佐島：ヒジキ、漁期の遅れ

長井及び佐島では、ヒジキの成長が遅く、最盛期が4月中旬から5月上旬に遅れ、5月末まで漁が続いていました。湘南漁協佐島支所所属の漁業者は、生のヒジキを加工設備で茹で、しなやかで弾力のある食感が特徴の「釜揚げひじき」を製造していました。釜揚げひじきは、直売所での販売のほか、丁寧に袋詰めし氷を効かせて梱包し、県内外の量販店に向け出荷されました。



直売所で販売される「釜揚げひじき」



生ヒジキと梱包出荷される「釜揚げひじき」

浜 の 話 題

【5 月 1 日、13 日】平塚：ハマグリ分布調査

5月1日、13日、平塚市漁協は、特別採捕許可によるハマグリ分布調査を実施しました。1日は2名で3.6kg、13日は4.4kgの採捕がありました。大きさは、両日共に2～4歳に当たる2～8cmの様々な成長段階のハマグリが採捕されるとともに、1日は9cm前後の立派なサイズも4個採捕されました。調査当日は今年の種苗放流(5月30日)前で、天然貝と思われる2cm台の稚貝も1日は6個、13日は1個採捕され、再生産も確認できました。



調査で採捕されたハマグリ



採捕された稚貝 6 cm以下の物は計測後放流

【5月3～5日】小坪：「小坪魚々祭り」

5月3、5日、小坪漁港において、小坪漁協所属の漁業者グループがフードイベント「小坪魚々祭り」を開催しました。焼き牡蠣、メカブうどん、魚カレー、東京海洋大の学生が作った干物の炭焼き等のフード屋台等の出店や塩蔵ワカメの販売があり、多数のお客様でにぎわいました。

5月5日には、逗子湾で養殖したマガキが焼き牡蠣にして3個500円で試験販売されました。約半年の養殖のため小ぶりですが、歯ごたえと風味・旨味が際立ち、好評でした。あるお客様は、36個(6,000円)お召し上がりになったそうです。



会場の様子



フード屋台の行列



塩蔵ワカメ

【5月9、30日】小網代：体験漁業（カキ養殖）

日本さかな専門学校（日本水産）の学生たちが、みうら漁協小網代地区で牡蠣養殖の作業体験をしました。今回は出荷を想定した殻研磨や大きさの測定を行いました。



殻掃除



工具で磨きます



カキ身体測定中

【5月11日】城ヶ島：ウニ採集

三和漁協城ヶ島地区の漁業者がウニ類の生息密度の適正化を図るため、市民ボランティアの応援を得て採集活動を実施しました。採集されたムラサキウニは、「キャベツウニ」の研究材料として当センターに提供していただきました。



参加者の方々



採集作業風景



800 個ほど採れました!!

【5月14日】神奈川県あなご漁業者協議会：総会

5月14日、神奈川県あなご協議会は、横浜市漁協柴支所にて、令和7年度の総会を開催しました。総会は、神奈川県漁連2名、当センター2名、漁業者6名の出席があり、事業報告、計画、収支予算他の報告があり、併せて開催した研修会では、当センターの主任研究員から、アカクラゲが増えた原因と、神奈川県におけるマアナゴ漁況について説明があり、参加した漁業者と意見交換が行われました。

【5月14日】小坪：藻場保全

5月14日、小坪漁協の座間指導漁業士らの漁業者グループは、ヒジキ藻場の再生試験(5月号【4月30日】)の経過観察及び追加実施をしました。4月30日にウニを徹底除去した試験区域には、2週間ではウニが区域外から入ってこないことを確認しました。良好な経過を踏まえ、4月30日に設置した試験区域に隣接して、同じく25m四方の試験区域を追加してウニの徹底除去を行いました。

【5月14日】茅ヶ崎：ハマグリ分布調査で稚貝確認

5月14日、茅ヶ崎市漁協「茅ヶ崎はまぐり部会」は、特別採捕許可によるハマグリ分布調査を実施しました。再生産状況を確認するため、浅場主体に鋤簾で調査した所、天然貝と思われる3cm以下の稚貝が26個確認されました。これまでの調査では天然稚貝は全く確認できていませんでしたが、今回の調査で再生産も確認できました。



調査で採捕されたハマグリ



採捕された稚貝（計測後放流）

【5月15日】佐島：ハマグリ種苗放流

5月17日、湘南漁協佐島支所の佐島、秋谷及び久留和地先において、(一財)横須賀西部水産振興事業団の支援により、ハマグリの種苗を放流しました。同支所地先では、ハマグリがあまり生息していませんが、種苗を放流することで、漁につながることを期待しています。

【5月15、27日】小網代：体験漁業（刺網・籠）

日本さかな専門学校が、みうら漁協小網代地区で漁業者の指導の下、刺網漁とタコ籠漁の体験をしました。刺網漁では、網を手繰ったり、漁獲物を外したり、網を畳んだりする作業を行いました。タコ籠漁は、水揚げがなく、残念な結果に終わりました。



揚網



漁獲物外し



タコ籠

【5月15日】小田原：藻場再生活動

5月15日、小田原藻場再生活動組織は役員会を開催しました。当日は、藻場造成や食害生物の除去に係るスケジュール、今後の活動の方向性などについて活発な意見交換が行われました。

【5月15、16日】藤沢地区：ハマグリ種苗放流

5月15、16日、藤沢地区で、ハマグリ種苗を放流しました。15日は江の島片瀬漁協で665kg（藤沢市支援500kg、江の島ハマグリ部会放流歩金分165kg）、16日は湘南漁協藤沢支所で1,500kg（藤沢市支援）の種苗を放流しました。種苗サイズは、4-5cm主体（3歳）で昨年放流した3cm（2歳）と比べて一回り大きいサイズで、同市職員と漁業者は2～3年後の漁に繋がるよう、期待を込めて放流しました。



ハマグリ種苗放流の様子

【5月19日】腰越：アオリイカ産卵礁の設置

5月19日、腰越漁協は、鎌倉市の協力を得て三浦半島アオリイカコミュニティ(2024年8月号【7月1日】)と共に、腰越地先にアオリイカの産卵礁を設置しました。鎌倉市の公園「広町緑地」において、森林の手入れを兼ねてアオキを伐りだし、市立小学校の校外学習を交え、伐採木産卵礁を作成しました。産卵礁には学童たちのメッセージが添えられました。

三浦半島アオリイカコミュニティ事務局

https://www.yamaria.co.jp/activity/aori_com



結び方を教える青年漁業士



学童のメッセージ



産卵礁の設置

【5月20日】東京湾小型機底びき漁業協議会：総会

5月20日、東京湾小型機底びき漁業協議会は、横浜市漁協柴支所で、令和7年度総会を開催しました。出席者は県水産課2名、神奈川漁連2名、当センターから2名、漁業者22名の出席があり、事業報告、計画、収支予算他の報告があり、話題提供では当センターの主任研究員よりアカクラゲが増えた原因、今期のタチウオ漁況などの話があり、参加した漁業者から色々と意見交換がありました。

【5月23日】江の島はまぐり部会:初の貝桁調査

5月23日、江の島片瀬漁協の江の島はまぐり部会(会長 湘南丸 浜野青年漁業士)は、担当普及員立合いの下、特別採捕許可によるハマグリ分布調査を実施しました。同漁協でのハマグリ貝桁調査は初の試みでしたが、46kg 230個の採捕があり、ハマグリ貝桁漁が片瀬地区の新たな漁業となりえる可能性が出てきました。



貝桁調査の様子



採捕されたハマグリ

【5月30日】相模湾各地：ハマグリ種苗放流

5月30日、相模湾沿岸の各浜で、ハマグリ（平均3-4cm）の種苗を放流しました。鎌倉、腰越、茅ヶ崎及び平塚において（公財）相模湾水産振興事業団の支援により、腰越及び茅ヶ崎において、（公社）日本水産資源保護協会資源保護協会の補助事業により、鎌倉において（公社）全国豊かな海づくり推進協会の補助事業により、鎌倉において漁業者グループ（鎌倉はまぐり部会）及び平塚において漁協の自己負担により、合わせて鎌倉で980kg、腰越で223kg、茅ヶ崎で312kg及び平塚で134kg放流しました。各浜ではまぐり部会を組織して、資源増殖・管理して行こうという動きがあり、漁業者は、3年後には漁獲サイズ（7cm程度）に無事成長するよう期待を込めて放流しました。

※文中のハマグリは、チョウセンハマグリになります。